

# シニア学生の学び直しについて

松蔭大学シニアセンター長 教授 宝子山 嘉一

松蔭大学では、他校に先駆けて、2012年度より「シニア学生」制度を始めました。シニア学生たちの人生経験、社会体験、職業経験等、様々な経験を、若い学生たちの教育に還元できるように、神奈川県内に在住の50歳以上を対象にしたものです。また、大学での学び直しで、まだ働ける世代の働く場の拡大にも役立つ制度です。

## 松蔭大学のシニア学生制度

松蔭大学のシニア学生制度は、2012年度から導入されました。受験資格は、1年次入学は、高卒または大検合格者、3年次編入は、短大卒、専門学校または大学に2年以上在学した人で、大卒の学士編入もできます。入学試験は、面接試験のみで行われます。入学年度の学納金および入学検定料は、一般学生の1/3で合計447,000円です。資格取得としては、学芸員、日本語教師、社会教育主事が挙げられます。

制度導入初年度は1年生5名、3年次編入生3名の8名が入学しました。

## 事例)シニア学生 佐伯洋子さん の場合

佐伯洋子さん（入学当時63歳）は、2012年4月に松蔭大学観光文化学部観光文化学科に入学しました。1・2年生の基礎ゼミⅠ・Ⅱ（初年次教育）は宝子山嘉一ゼミ、3・4年生の演習Ⅰ・Ⅱ（専門ゼミⅠ・Ⅱ）は、国際観光論をテーマとする田中一郎ゼミでした。卒業に必要な単位に加え、4年生のときに学芸員の資格を取りました。2016年3月に松蔭大学観光文化学部観光文化学科の総代を務め卒業しました。現在は2016年9月より松蔭大学内で「カフェForest」を開店し、教員や学生との交友を保っています。

（佐伯洋子さんの学生生活の一例）

- ① 1年2年次の基礎ゼミには、3人の女子留学生在籍しており、その面倒をよく見ました。



女子留学生と

- ② 1年次、中井町巖島湿生公園にての「竹灯籠の夕べ」での竹灯籠づくりに参加をし、フィールドワークを行いました。



「竹灯籠の夕べ」でのフィールドワーク

- ③ 3年次、キャリアセンター主催の女子学生対象のメイクアップ講座にて仕事（ヘア&メイク）の経験を活かして講師を務め大変好評でした。



メイクアップ講座の様子

- ④ 秋の松蔭祭ではシニア学生仲間とポップコーンの模擬店を出店し、シニア学生仲間とも楽しい時間を過ごしました。



秋の松蔭祭に出店

- ⑤ 専門ゼミでは、国際観光論を学び、卒業研究では「おもてなしで訪日観光客を増やせるか」をテーマとし卒論を書き上げました。研究の結論は、増やすための効果はある。それには、おもてなしの細やかなところ遣いが重要である、とのことでした。



専門ゼミ(国際観光論)

- ⑥ 卒業後は、松蔭大学森の里キャンパス内に「カフェ Forest」を開店し、火曜日と木曜日の11時から15時まで営業しています。



カフェ Forest

- ⑦ さらに学芸員の資格を活かし、ボランティア・チーム「やまとアートシャベル」に参加して、大和市立小学校で美術授業の補助

や小学生の美術館学習への同行などの活動も行っています。



### まとめ「シニア学生制度のメリット・受け入れ体制の要点」

シニア学生の受け入れには多くのメリットもありますが、体制の整備によってはデメリットも生む出すことがあります。それらは、松蔭大学でのこれまでの経験から、次のようにまとめられます。

大学側のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>★社会貢献</li> <li>★地域連携</li> <li>★一般学生、教職員への刺激</li> </ul>
のシニア学生側のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>★知的好奇心の充足</li> <li>★学士号の取得</li> <li>★異世代交流</li> <li>★生涯発達</li> </ul>
受け入れ体制の要点	<ul style="list-style-type: none"> <li>★一般学生の修学意欲の向上がはかれるか</li> <li>★授業運営に支障がないか</li> <li>★一般学生とシニア学生との間の学則適用の違いをもうけるか</li> </ul>